

# カレンダーシラバスによる「中級日常会話」教材の開発

数野恵理・佐藤由紀子・鈴木庸子

## 1. はじめに

「中級日常会話」は、ICU 日本語教育課程（以下 JLP : Japanese Language Programs）における日本語 4、日本語 5、日本語 6（以下 J4,J5,J6）の 3 レベルの中級コースで共通して利用できる会話学習用の補助教材として開発したものである。

JLP の初級コースで 1996 年以来使われてきた『ICU の日本語』（初級教科書）では、「学生として日常生活のさまざまな場面で必要な言語活動—聴き、話し、読み、書き—ができるようになること（国際基督教大学 1996、p.17）」に主眼がおかれている。一方、中級コースで使用してきた『ICU 中級日本語』（試用版の中級教科書）、『日本語中級 J301』『日本語中級 J501』（スリーエーネットワーク）の内容は読みを中心としており、その他の言語活動、とりわけ話す活動は教科書と別に教材を準備する必要があった。

話す活動としては、話し合い、発表、会話などがあるが、会話に関しては中級を担当した教員による会話補助教材が作成され、一部は冊子の形にまとめられることもあった。ただ、必ずしもレベル間、年度間で統一したシラバスは存在しなかった。「中級日常会話」は、これまでこのようにして蓄積されてきた教材群を参考にして、生かせるところを生かしながらシラバスを整理し、内容を整えたり書き加えたりして作成したものである。シラバスの整理にあたっては留学生が来日してから離日するまでの学生生活に合わせた「カレンダーシラバス」と J4,J5,J6 の全コースで使用できる「中級 3 コース共通教材」という 2 つの方針をたてた。2008 年度に企画を始め、カレンダーシラバスに基づく試用版を作成、使用し、問題点や改良すべき点について担当者の意見を尋ね、2010 年度に現行の「中級日常会話」を完成した。

## 2. 中級における日常会話教育の必要性

一般に日本語教育における初級の学習目標は基礎的な文法と語彙を学び、それを用いて日常的な場面での言語活動ができるようになることである。聞く、話す、読む、書く、の 4 技能を養成しているが、このレベルでは話す・聞く能力の養成に重点が置かれることが多い。ICU の日本語教育も同様で、初級教科書『ICU の日本語』の各課はロールプレイでその課の学習目標が達成できたかどうかを確認するようになっている。それに対して、中級では 4 技能のバランスのとれた学習とはいいいながら、現在 JLP で使用されている教科書は読解中心のものである。初級で基礎的な文法項目と語彙を学習した後、中級ではさまざまな接続表現や文末表現を学び大量の語彙と漢字を覚えていかななくてはならない。また、話し言葉と書き言葉の乖離が比較的大きい日本語では、中級で読み書きに力点が置かれることは当然であろう。もちろん、中級でも話す活動の重要性がなくなるわけではなく、「1. はじめに」で述べたように JLP 中級のカリキュラムでも話す時間は確保されている。ただ、中級の話す活動では話し合いや発表に比重が移り、日常会話の練習が不十分になりがちである。また、他校で初級の学習を終わり中級から ICU に留学してくる学生の中には、JLP

のコース履修以前に日常会話の訓練を十分に受けていない学生も見られる。そのためか、中上級になってもごく基本的で簡単だと思われる依頼や断りのような場面で日本語母語話者に違和感を抱かせないような自然な会話ができない学生が多い。

例えば、かつて非常勤講師室に電話をかけてきて「〇〇先生はいらっしゃるんですか」と言った上級の学生がいた。近年、用事はメールで伝えることが多くなったため、このような電話に戸惑いを覚えることは少なくなったが、「んです」の誤用自体はよく見られるようだ。あるいは、依頼には「～ていただけませんか」を使うという知識はあり依頼そのものはスムーズにできる学生でも、その前後にどんなことを言うのか、あるいは言わないのか、どのように話を終えるのか、などのいわゆる日本語の談話構造や、他人にものを頼むときにはどのような物腰態度が問われるのかなどの非言語行動に関する知識を欠いているために、唐突な話し方になったり相手に失礼な印象を与えたりすることがある。

話しかけて相手の注意を喚起する、話したいことを切り出す、話を運ぶ、話を終えるといった一連の談話の流れがスムーズでないと、聞き手に違和感を与えコミュニケーションがうまくいかなくなる。そして、このような自然な談話の流れはその言語の話し手たちが属する文化や社会ごとに、ある程度決まったパターンがあると言える。井上 (2008) は「談話の進め方には規則性がある。熟練労働<sup>注</sup>として談話行動をみると、挨拶、感謝、礼、謝罪、苦情、詫び、喧嘩などには、それぞれの文化で一定の型がある。個人差はあるが、相手の型に合わなかったために大きなコミュニケーション障害が起こりうる (p.30)」と述べているが、同様の指摘は多く見られる (ネウストプニー 1982、岡崎 1987、柏崎 1993、因・市丸・栗山 1993、杉戸 2007)。よく、外国語能力に関して「日常会話程度は何とかできます」というような言い方がなされるが、実は自然な日常会話こそ難しいとも言えるのではないだろうか。

ICUの留学生たちもそのことを痛感していると思われ、「毎日の生活の中で日本語を使ってコミュニケーションができるようになりたい、そのために役立つ授業をしてほしい」という声はよく聞かれる。また、2011年度夏期日本語教育で筆者が担当したC5コースの学生の授業評価には、「もっと話し方を学びたかった」「日常生活に必要な日本語にも重点をおいてほしい」などの記述が見られた。さまざまな学生の要望や意見をそのまま授業に反映すべきだとは必ずしも考えないが、このような学生の要望にも真摯に耳を傾ける必要はある。

大浜 (2006) は生駒・志村を引用し、「学習者が初級段階にある間は発音や文法に問題があることが多いので、そちらに注意が向けられがちであるが、学習が進み、流暢な日本語が話せるようになってくると、次第にふるまい方の違いが指摘されるようになる。それは母語話者からみれば、普通はそんなことはしない、そんなことは言わないと思えることがらであり、場合によっては学習者の人格上の欠点とみなされることもある (生駒・志村 1993)」と述べている (p.128) が、中級の授業ではこのあたりに注目して日常会話を積極的に教える必要があるのではないだろうか。初級のロールプレイとは異なった、談話構造や非言語行動の理解と習得を目指した日常会話教育を授業の中に組み込むことが望まれる。すでに多くの識者が言っていることだが、「日本語教育でも談話の型について体系的に教えるべきであるし、むしろ談話パターンや非言語情報が日常生活で重要である (井上 2008、p.30)」という指摘に賛成するものである。ただし、このことは安易に日本人の談話の型を

画一化してハウツー知識を与えようとしたり、まして「日本語母語話者はこの場面ではこのように言い、このようにふるまうものだ」と教え、それを学生に強要しようとしたりするものではない。この点に関しては教材作成上も実際の授業時にも、十分に配慮することが肝要であることは言うまでもない。

### 3. 「中級日常会話」教材の概要

#### 3-1. カレンダーシラバス

ここではカレンダーシラバスについて述べ、次節では各課の構成について述べる。前述のように、「中級日常会話」教材は、以前からICUの中級で使用されてきた会話教材をもとに、カレンダーシラバスに基づいて作成したものである。9月に来日してから6月に帰国する(あるいは友人を見送る)までの一年間に必要だと思われる日常会話を季節ごとに並べた。日本での生活の範囲が広がるにつれて、遭遇する場面が増え、それに応じて必要な語彙や表現が変わっていくと考えたためだ。ICUの中級コースは3レベルに分かれているが、キャンパスや町で日本語を使う時に必要な語彙や表現は、レベルによって大きく異なるものではない。そこで、この教材は中級すべてのレベルの学生を対象として作成した。そのため、語彙や表現の中にはJ4の学生には難しいものも含まれているが、それぞれのクラスの学生にとって難しいものや必要のないものは教師の判断で省き、逆に、必要があれば加えて使ってほしいと考えている。

この教材は全17課から構成されている。大まかな目安として、以下のように秋・冬・春の各学期に割り振ってある(資料1参照)。1課を1コマで扱うことを想定しているが、例えば秋学期に6課すべてを扱うということではなく、各クラスの必要に応じて取捨選択できるように多めに作った。選択にあたっては、学生のニーズを聞いてみることも効果的だと考えている。

#### 〈秋学期〉(第1課～第6課)

- 1) キャンパスの新生活 (DVD)
- 2) 待ち合わせの約束 (DVD)
- 3) 飲み物・食べ物の注文 (DVD)
- 4) 先生の研究室・大学の事務室に電話をかける (DVD)
- 5) 初対面の人と話す
- 6) 秋休みの誘い

#### 〈冬学期〉(第7課～第12課)

- 7) トランプで遊ぶ
- 8) 変更を依頼する (DVD)
- 9) アルバイトをさがす
- 10) トラブルがあったとき
- 11) 推薦状を頼む
- 12) ホテルの予約

#### 〈春学期〉(第13課～第17課)

- 13) 困っている新入生に声をかける (DVD)

- 14) きっふの変更と払い戻し
- 15) レストラン・居酒屋の予約 (DVD)
- 16) お別れの言葉を述べる (DVD)
- 17) 帰国前に不用品をゆずる (DVD)

DVD と書いてある課には、2009 年度の ICU 研究助成基金補助金を受けて作成した映像教材がついている。これは日本語上級の学生が会話例に基づいて自由に演じたビデオである。外国人の発話であるため、言語的な要素の完璧なモデルではないが、場面を提示したときやロールプレイのモデルを見せたいときなどに活用できるようにした。

なお、夏期日本語教育のニーズに応えるため、上記 17 課のうち、以下の 4 課分から括弧内の内容を取り出し、2011 年夏に使用した。各課には基本的に 2 つ以上の会話例とロールプレイがあるため、一方を夏期日本語教育で指導しても、秋学期以降に重複するという支障は出ないようにしている。

- 1) キャンパスの新生活 (郵便局でエアメールを出す)
- 3) 飲み物・食べ物の注文 (レストラン・居酒屋で注文する・質問する・声をかける)
- 5) 初対面の人と話す (キャンパスで初対面の学生と話す)
- 11) 推薦状を頼む (先生と会う約束をし、奨学金申し込みの推薦状を書いてもらう)

### 3-2. 各課の構成

各課は原則として以下のような構成になっている (資料 2 参照)。まず、タイトルがあり、次にその課の場面や目標を簡単に説明する \* 印の文がある。そして、《ことば》、《表現》、《会話例》、《ロールプレイ》が続く。また、いくつかの課には《コラム》もつけた。

タイトルは学生の生活に密着していてわかりやすいものになるよう心がけた。

《ことば》は各課の会話に必要な語彙のリストである。ただし、前述したように、クラスのレベルや学生の必要に応じて、取捨選択することを前提としている。

《表現》は各課の会話に必要な表現のリストで、各課の場面や会話の相手に応じて、丁寧な表現かくだけた表現を載せてある。両方があり得る場合はくだけた表現は省略してあるが、クラスのレベルや学生の必要に応じてくだけた表現も確認するなど工夫をしてほしい。なお、表現を提示するにあたって、名詞を表す記号として「○○」を、活用を含むもの、句など「名詞」の範疇に入らないものを表す記号として「〜」を用いた。《ことば》と《表現》は、提示された順に発音などに注意しながら確認していくという方法もあるが、タイトルから連想することばや表現を学生に挙げさせてから新しいことばや表現を導入するという方法もあるので、必要に応じて使い分けるとよい。

《会話例》はその課の具体的な会話の例である。会話例をそのまま暗記することは求めていないが、会話例によって日本語における話の切り出し、運び、結びなどを示そうとしたものである。各会話例には下線を施した空欄があるが、この部分は学生にどのような表現を使ったらよいか考えさせる部分である。空欄には《表現》で学んだことばを入れると上手な会話ができるようになっている。教師用の解答例にはその課で学習してほしい表現が書いてある。教師には積極的にその表現を使うよう学生に促してもらいたい。ただし、他

にもいろいろなバリエーションがあるので、1つの正解を求めるのではなく、自発的にいろいろな表現を自分で考えさせることも必要である。その場面の状況をイメージして、言いたいことを思い浮かべ表現しようとする、学生のチャレンジを促してほしいと考えている。ほとんどの課には2つ以上の会話例が載せてあるが、実際の授業ではクラスのレベルや授業時間に合わせ、どちらか1つを取り上げてよい。

次に、学生に実際に行わせる課題として、《ロールプレイ》を載せてある。教材に提示された順序で授業を行う場合には、会話の流れを意識し、新しく学習したことば・表現をなるべく使うように指示し、自由にロールプレイをさせ、フィードバックをする。しかし、必ずしも教材に提示された順序で行う必要はない。《ことば》や《表現》を確認する前に力試しとしてロールプレイをさせてみて、《会話例》と比較してから、仕上げにもう一度ロールプレイをするというような指導も取り入れるとよいだろう。

最後に、いくつかの課には《コラム》がある。カレンダーに合わせた季節に関わることからや会話の内容・場面に関わることがらを載せた。日本文化や日本人の生活について知識を深めるための手掛かりになるとよいと考えている。

#### 4. 今後の課題

次の3点を今後の課題として挙げたい。

まず、この会話教材を実際に使用して見えてきた問題点の改善である。具体的には、取り上げたトピック、語彙、表現のうち、適切でないものを省き、必要なものを加えることである。例えば、夏期日本語教育のような6週間という短期間のコースでは、学生は電子メールを利用し、「郵便局」で手紙を出すという場面はあまり必要がない。また、各課の学習内容の分量が統一されておらず、分量の多い課と少ない課があること、学期によって配分されている機能に偏りがあることから、そのバランスをとるように内容を整理し量を調整することが必要である。例えば、春学期には聞き返しの機能を扱う課が2つあるが、秋、冬学期にはそれがない。

次に、日常会話の授業とドラマの視聴のようなリスニングの授業とを関連付けることも必要である。例えば、ドラマ視聴の授業の中で、実際に行われている自然な会話の切り出しや終わり方に注目させることで、日常会話授業での練習を動機付けることができる。また、ドラマの視聴によってさまざまな場所、多岐にわたる相手との具体的な会話の場面を想起しやすくすることができる。

第3の課題は学習成果の評価である。この教材を使用した授業における評価について、そもそも評価が必要かどうかも含めて、ここで求めている「会話の力」は、どのような方法で測ることができるのか、議論や検討が必要である。中級では、相手によることばの使い分けや、会話のストラテジー、談話機能の適切な使用が学習の中心になる。これらの項目は、初級のようにモデルの会話を想定し、その会話を到達目標にして測ることは非常に難しい。もちろん、適切な語彙や表現を使用したかどうかをチェックすることはできるが、ことばの使い分け、ストラテジー、談話機能の使用の適切さなどは、単純に測れないのではないだろうか。例えば学生が授業で学んだ表現は使用せずに、授業で教えなかった「回避のストラテジー」を上手に使用して相手に失礼にならないように会話を継続させた場合、その学生の「会話の力」をどのように考えればよいだろうか。あるいは、モデル会話を丸



暗記したような受け答えはどう評価したらよいだろうか。つまり何をもって学習の「成功」とし、どのようにそれを測ることができるか、ということが問題となる。

これらの課題について、今後解決できるものはできるだけ早く、時間を要するものは議論を重ねて解決していきたいと考えている。

## 注

井上は、日常会話のようなごく普通の話の仕方は、母語話者が意識的に学校などで学ぶものではなく、生まれてから成人になるまでの間に周囲の人々のやり方を繰り返し見て模倣し、間違えた場合には修正し、というような訓練をしていくうちに自然に習得するものであり、その意味で母語話者が日常会話の仕方を学ぶ過程は熟練労働のようなものであるという。

## 謝辞

「中級日常会話」のもととなった会話教材を作成された先生方、試用版についてのご意見をお寄せくださった先生方に感謝申し上げます。

## 参考文献

- 生駒知子・志村明彦（1993）「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー：「断り」という発話行為について」『日本語教育』第79号 pp. 41 - 52
- 井上史雄（2008）『社会方言学論考—新方言の基礎—』明治書院
- 因京子・市丸恭子・栗山昌子（1993）「中級学習者の話し方の問題点とその指導法に関する考察」『九州大学留学生センター紀要』第5号 pp. 107 - 132
- 大浜のい子（2006）「第2章第4節 会話分析」縫部義憲監修『講座・日本語教育学第2巻言語行動と社会・文化』スリーエーネットワーク
- 岡崎敏雄（1987）「談話の指導—初～中級を中心に—」『日本語教育』第62号 pp. 165 - 178
- 柏崎秀子（1993）「話しかけ行動の談話分析—依頼・要求表現の実際を中心に—」『日本語教育』第79号 pp. 53 - 63
- 国際基督教大学（1996）『ICUの日本語 初級1』講談社インターナショナル
- 杉戸春樹（2007）「日本語社会における言語行動のバリエーションと日本語教育」『日本語教育』第134号 pp. 18 - 27
- 土岐哲・関正昭・平高史也・新内康子・鶴尾能子（1995）『日本語中級 J301—基礎から中級へ—英語版』スリーエーネットワーク
- 土岐哲・関正昭・平高史也・新内康子・石沢弘子（2001）『日本語中級 J501—中級から上級へ—英語版（改訂版）』スリーエーネットワーク
- ネウストブニー、J.V（1982）『外国人とのコミュニケーション』岩波書店

\*「中級日常会話」付属のDVD作成にあたっては2009年度ICU研究助成基金補助金による助成（「中級日本語教育のための映像教材の開発研究」申請者 鈴木庸子）を受けている。



## 資料1 日常会話カレンダーシラバス

学期	時期	タイトル	ロールプレイ内容(タスク)
秋学期	9月-1	日常会話1 キャンパスの新生活	1. 郵便局でエアメールを出す 2. 図書館で規則を尋ねる
	9月-2	日常会話2 待ち合わせの約束	1. 電話で友達と待ち合わせの約束をする
	9月-3	日常会話3 飲み物・食べ物の注文	1. レストラン・居酒屋で注文する・質問する・声をかける 2. レストラン・居酒屋で間違いを指摘する・声をかける
	10月-1	日常会話4 先生の研究室・大学の事務室に電話をかける	1. 留守番電話にメッセージを残す・事情を説明する 2. 電話をかかってもらう 3. 電話で事情を説明して伝言を頼む
	10月-2	日常会話5 初対面の人と話す	1. 国際交流パーティーで初対面の人と話す 2. キャンパスで初対面の学生と話す
	11月	日常会話6 秋休みの誘い	1. サークルの友達を遊びに誘う・断る 2. サークルの友達を遊びに誘う・説得する
冬学期	12月-1	日常会話7 トランプで遊ぶ	1. 合宿先や旅行先でトランプの説明をする
	12月-2	日常会話8 変更を依頼する	1. 授業の後で、先生に個人面談の日時を変更してもらう 2. 友達に約束の日時を変更してもらう 3. 図書館でグループ学習室の予約の取り消しをする
	1月-1	日常会話9 アルバイトをさがす	1. 学生課の事務室で家庭教師のアルバイトをさがす 2. 求人広告を見て電話をし、面接の日程を決める
	1月-2	日常会話10 トラブルがあったとき	1. 図書館や総合学習センターで機械トラブルがあったときに、助けを求める 2. ホテルの部屋でのトラブルについてフロントに電話で質問する
	2月-1	日常会話11 推薦状を頼む	1. 先生と会う約束をし、奨学金申し込みの推薦状を書いてもらう
	2月-2	日常会話12 ホテルの予約	1. 電話でホテルの予約をする 2. 電話でホテルに問い合わせる
春学期	4月-1	日常会話13 困っている新入生に声をかける	1. キャンパスで困っている新入生に声をかけて道を教える 2. 聞き取れなかったことを聞き返したり確認したりする
	4月-2	日常会話14 きっぷの変更と払い戻し	1. 駅の窓口で指定席券の日時の変更をする 2. 駅の窓口で定期券を払い戻してもらう
	5月-1	日常会話15 レストラン・居酒屋の予約	1. レストランや居酒屋に電話をかけて予約する・聞き返す 2. レストランや居酒屋に電話をかけて予約の変更を依頼する
	5月-2	日常会話16 お別れの言葉を述べる	1. 送別会で先生にお礼とお別れの言葉を述べる 2. 友達と思い出を語り、お別れの言葉を述べる
	6月-1	日常会話17 帰国前に不用品をゆずる	1. 自転車をもらってくれる人をさがす 2. 友達に不用品を売るための交渉をする



場面	相手	機能	その他	コラムなど
郵便局 図書館	郵便局の人 図書館の人	尋ねる	そうですか そうですね	お墓参り
友達への電話	友達	提案する 確認する	あいづち 話の切り出し	ハチ公 駅探検
レストラン 居酒屋	店の人など レストランの人 居酒屋の人	注文する 尋ねる・依頼する 間違いを指摘する	声をかける	自然をめでながら食事をする文化
先生の研究室・大学の 事務室への電話	先生 大学の事務室の人	事情を説明する 依頼する 伝言する	留守番電話にメッセージを残す	
パーティー・懇親会 キャンパス	初めて会う人 初めて会う学生	社交的会話をする 誘う	話の切り出し 話の結び	いろいろな集まり “Nice talking to you.”
キャンパス	友達	誘う 断る 説得する	話の切り出し 話の結び 感動を伝える	玄関でのあいさつ

合宿先・旅行先	友達	手順を説明する		年末年始の挨拶
教室 キャンパス 図書館	先生 友達 図書館の人	謝る、依頼する 事情を説明する 交渉する・キャンセルする	あいづち・話の切り出し・話の結び 相手の反応を見ながら少しずつ話を進める	
学生課の事務室 求人先への電話	大学の事務室の人 知らない人	事情を説明する 尋ねる 提案に応じる	話の切り出し 思い出したことを付け加える	
図書館 総合学習センター ホテル	図書館の人 総合学習センターの人 ホテルの人	助けを求める 事情を説明する 尋ねる	あいづち・話の切り出し 相手の反応を見ながら少しずつ話を進める	節分
教室 先生の研究室	先生	依頼する	あいづち・話の切り出し 相手の反応を見ながら少しずつ話を進める	
ホテルへの電話	ホテルの人	予約する 尋ねる		宿泊施設いろいろ

キャンパス	知らない学生	助けを申し出る 道を教える 尋ねる・確認する	声をかける 聞き返す	
駅の窓口	駅員	依頼する 事情を説明する 尋ねる	話の切り出し 話の結び	きっぷの変更 乗り遅れ 定期券の払い戻し
レストラン・居酒屋への 電話	店の人など レストランの人 居酒屋の人	予約する 依頼する	聞き返す	五月晴れ
キャンパス 送別会	知っている目上の人 先生 友達	気持ちを伝える 礼を言う 社交的会話をする	話の結び	お礼のことば
キャンパス	友達	事情を説明する 交渉する 相談する・助言する	話の切り出し	不用品のリサイクル

## 資料2 教材例

中級日常会話 17

### 帰国前に不用品をゆずる

\* 帰国するときに、要らないものをどうしますか。ゆずりたいものはどんなものですか。

#### 《ことば》

不用品 = 要らなくなったもの

ゆずる = ほしがっている人に不用品をあげたり、安く売ったりする

処分する = 要らないものを捨てる / (売る / あげる)

粗大ごみに出す 張り紙を出す サイトに情報をのせる

引き取る = 処分するために受け取る / 持っていく

新品 中古 = 使ったもの 買ったばかり

リサイクルショップ 市役所

#### 《表現》

##### 1. 話を切り出す

- ・あのう、ちょっと相談したいことがあるんだけど…。
- ・あ、そうだ。ちょっと相談したいことがあったんだ。

##### 2. 相談する

- ・〇〇をゆずりたいんだけど、欲しいって言ってる人、知らない？
- ・だれか、〇〇が必要な人、いないかな？
- ・どこか、〇〇を引き取ってくれるとこ、知らない？

##### 3. アドバイスする

- ・それだったら、〇〇に聞いてみたらどう？
- ・それならサイトに情報をのせてみたら？
- ・それなら張り紙を出すといいよ。／出したらいいんじゃない？

##### 4. お礼を言う

- ・分かった。ありがとう。
- ・教えてもらって助かった。
- ・ありがとう。そうしてもらえると助かる。
- ・じゃあ、～てみる。ありがとう。

《会話例 1》（自転車をもらってくれる人をさがす）

A：あ、そうだ、①\_\_\_\_\_。

B：どうしたの？

A：②自転車\_\_\_\_\_、だれか欲しいって言ってる人、知らない？

B：自転車？

A：うん。

B：一人知ってるけど…。新しいの？

A：うーん、そうでもないけど、きれいだよ。ちゃんと手入れしてあるから。

B：じゃあ、聞いてみようか？

A：ほんと？

B：でも、ゆずるって、売るってこと？ タダでもいいの？

A：タダでいいよ。中古だし、私/僕ももらったんだし…。

B：じゃあ、その友だちに話してみるね。

A：ありがとう。そうしてもらえると助かる。

B：うん。ただ、登録とうろくのこと気をつけてね。

A：うん、大丈夫。ありがとう。

《ロールプレイ 1》

A

あなたは OYR で 6 月に帰国します。去年の 9 月に、同じ寮の学生からもらった自転車をだれかにゆずりたいと思っています。ラウンジで 4 年本科生の 1 年生の友だちに相談をしてください。

B

あなたは 4 月に ICU に入ってきた 4 年本科生です。6 月に帰国する留学生の相談に乗ってあげてください。

《ことば》

家電 れいぞうこ 冷蔵庫 せんたくき 洗濯機 かんそうき 乾燥機 オープントースター 電子レンジ  
炊飯器 すいはんき ストープ こたつ ドライヤー ふとん 自転車 ほんだな 本棚  
DVDプレーヤー パソコン ギター スクーター 原付 げんつき

《表現》

- ・どのぐらいの大きさ？
- ・このぐらい。
- ・できれば〇〇円ぐらいで売りたいんだけど…。
- ・〇〇円でどう？
- ・もう少し安かったら買ってもいいけど…。
- ・もう少し安くしてもらえない？
- ・うちまで取りに来てもらえると助かるんだけど…。
- ・粗大そだいごみに出すとお金がかかっちゃうから、お金はいいよ。

《会話例 2》 (不用品を売るための交渉こうしょうをする)

A：〇〇要らない？

B：なんで？

A：もう帰るから、要らないものを売ろうと思って。

B：え、いくらなの？

A：いくらぐらいなら買ってもらえる？

B：うーん。

A：1000 円でどう？

B：1000 円かあ。もう少し安かったら買ってもいいけど…。中古でしょう？

A：中古って言っても、買ったばかりなんだ。ほとんど使ってないし…。

じゃあ、△△もいっしょにつけて、1000 円でどう？

B：本当？じゃあ、1000 円で。

A：ありがとう。悪いんだけど、取りに来てもらえる？

B：いいよ。

《ロールプレイ 2》

A

あなたは、OYRで6月に帰国します。国に持って帰らない不用品を売りたいと思っています。4年本科生の友だちに売ってください。売りたいものは新品か中古か、どんな色や形か、などを説明して、値段の交渉こうしょうをしてください。

B

あなたは4年本科生です。6月に帰国するOYRが不用品を売りたいと言っています。どんなものか聞いて、値段の交渉こうしょうをしてください。

不用品のリサイクルについて：

- ・三鷹市には「不用品交換情報ふようひんこうかんじょうほうカード」というシステムがあります。カードに書いておくと、ほしい人が見て連絡してくれます。

Website ⇒ [http://www.city.mitaka.tokyo.jp/c\\_service/000/000636.html](http://www.city.mitaka.tokyo.jp/c_service/000/000636.html)

- ・1年に4回、フリーマーケットもやっています。

Website ⇒ [http://www.city.mitaka.tokyo.jp/c\\_service/016/016998.html](http://www.city.mitaka.tokyo.jp/c_service/016/016998.html)

